

平成 28 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	ポストドクター・キャリア開発事業(採択期間 H23～H27) 「キャリア開発特論」の継続実施
取組代表者名 担当者名	* 事業担当者は全員記入してください。 研究・イノベーション担当 理事・副学長 小川 温子 グローバルリーダーシップ研究所 教授 宮尾 正樹 キャリアイノベーションアクセレーターオフィス (CIAO!) 特任講師 星 かおり (リーディング大学院兼任) 非常勤講師 深澤 知憲 (リーディング大学院兼任)

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

【これまでの経緯と本教育 GP の意義】

女性リーダー育成を使命とするお茶の水女子大学では、社会的な役割や期待を踏まえ、「企業等を含む社会のあらゆる分野において中核的役割を果たす女性リーダーの育成」を目標として掲げている。また社会的にも、イノベーションを創出する人材育成—特に大学院レベルの高度女性人材への要請は高く、内閣府が示した「平成 32 年までに指導的地位に女性が占める割合をあらゆる分野で 30%程度に引き上げる」という目標を実現するため、本学では様々なキャリア教育方法の開発と、リーディング大学院などのプログラムを通じた高度人材育成の実践に努力を続けている。

その過程において、本学では、平成 23～27 年度に渡り、文科省からの支援を受けてポストドクター・キャリア開発事業(旧ポストドクインターンシップ事業)を実施した。本事業の目標は、①企業等において中核的役割を果たす女性リーダー育成システムの開発と支援制度の確立、②女性リーダー育成に向けたオリジナルカリキュラムの開発と実践であり、本学では特に、大学院博士後期課程レベルの女性人材のキャリア開発支援システム、育成カリキュラム、多様性に適応したサポート体制等の基盤を構築した。当該事業においては、通年公募や非常勤雇用など、より女性が参画しやすいインターンシップ制度を設け、教員や PD のアンケート結果を PDCA サイクルに反映し、様々な創意工夫を行った結果、特に文系の養成者の企業インターンシップを高い割合で成立させるなどの成果を挙げた。その結果、当初の育成目標をほぼ達成する実績を上げ、28 年度に受けた事業の終了評価では「A」評価を受けた。

しかしながら、本事業で大学院単位認定科目として創設された大学院生のキャリア意識涵養のための科目の一部については、事業終了後に継続するための十分な見通しが立っていなかったのは極めて残念なことである。引き続き今後も、より多くの大学院生に、研究で培われた転移可能な能力がいかに社会で役に立つかを知ってもらうため、様々な分野で活躍する

人材の講話を聴き、直接交流することは有意義であり、将来のキャリアパスを拓げ、現在行っている研究の動機付けにも繋がる事業である。そこで、ポストドク事業において女性リーダー育成に向けて開発した、大学院オリジナルカリキュラムを、全学のキャリア教育に生かし普及することを目標として、本学内教育 GP を 28 年度から実施した。

【具体的内容】

大学院単位認定科目として創設され本カリキュラムを構成する、「キャリア開発特論」基礎編、応用編、実践編、ロールモデル編(各 2 単位)の 4 科目の内、28 年度はロールモデル編(前期)と基礎編(後期集中)、実践編の 3 つの科目を実施し、ロールモデル編と基礎編の 2 科目に本助成を活用した。前述したようにこれらは、国立の女子大学として、社会のあらゆる分野で中核的役割を果たす女性リーダーを輩出するための教育モデル(キャリア開発支援システム、育成カリキュラム、多様性に適応したサポート体制等)を提示するものである(下図参照)。

28 年度に本助成により開講した 2 科目の講義概要は以下の通りである。

・「キャリア開発特論(ロールモデル編)」

産学官の様々な分野で活躍する修士課程修了以上の女性をゲスト講師に迎え、キャリアパスとロールモデルを議論する講義を展開した。

・「キャリア開発特論(基礎編)」

受講者それぞれの過去、現在、未来について、ワークショップ形式で分析し、これからのキャリアをどのように築いていくかを講義の中で明確にし、アクションプランを立てた。

【受講実績】

両講義ともに 20 名前後の学生が履修した。講義後のリアクションペーパーからも受講生の満足度がうかがえ、それぞれが自身のキャリアを考える機会になった事が示された。

お茶大型キャリア支援システムの枠組み

◇キャリア開発関連科目

- ・キャリア開発特論
- ・グローバル女性リーダー特論



◇PD/DCと企業との交流会(ワークインプログレス)

- 本事業2年目より毎年開催、博士人材と企業側がじっくりと交流出来るイベント。
①企業概要説明、②博士人材によるポスター発表、③交流会の3部構成。



◇キャリア開発セミナーの開催

- ・「キャリアパスガイダンス」(毎年4月)
- ・起業セミナー
- ・インターンシップ報告会
- ・グローバルリーダーワークショップ



女性博士人材が社会のあらゆる分野で活躍できることを提示
女性博士人材の意識変革を引き起こした

2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

今後、本事業で実施されてきたカリキュラム全体の見直しを行い、キャリア教育、リーダーシップ教育と融合させて学内に定着、発展を図る必要がある。「キャリア開発特論」の基礎編、応用編、実践編、ロールモデル編のうち、「グローバル女性リーダー特論」の4講座と重なる科目については、統合し、科目数を削減するなど、学生にとって有意義な講義を残しながら、経費を抑えて実施することを念頭に、検討を進める必要がある。

講義の内容については、学生にとって有益なコンテンツを残し、状況に合わせて修正を行う。経費については、連携企業の協力のもと、ゲスト講師への謝金や講義の提供を無償でしていただけるよう交渉を行うなど工夫をし、講義実施の経費負担の削減を目指して担当理事と学生・キャリア支援センターを中心に検討を行う。